

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K21243

研究課題名(和文)18後半から19世紀前半にかけてのナポリの民間劇場の担い手に関する実証研究

研究課題名(英文)Empirical research on the "supporter" of public theaters in Naples from late 18 to early 19th century

研究代表者

山田 高誌 (Yamada, Takashi)

熊本大学・教育学部・准教授

研究者番号：10580665

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18世紀、19世紀のナポリの民間劇場の担い手(興行師、観客、出資者)が誰であったのか、そして、どのような政治や新思想との関係においてオペラや演劇作品が上演されていたのか、諸史料より多角的に調査するものであった。とりわけ、王妃マリア・カロリーナが推進したと考えられる1780年代の"英国の勝利"を表象したオペラ群について、英国大使W.ハミルトンがどのような見解を持ったのか、大英博物館に残る報告書群を調査したが、具体的な記述を見出すことはできなかった。一方、ナポリ公証人文書、ナポリ銀行歴史文書館での調査において、劇場興行の実態にかかわる種々の一次史料を発見することができた。

研究成果の概要(英文)：This research is aimed at the question of who was the "supporter" of the Neapolitan public theaters in the late 18th century (the impresario, the audience and their financial support), and what kind of political tendencies was reflected in theatrical works. Through the "excavation" of materials: the envoy of W. Hamilton preserved in British Museum, contracts between impresarios and artists in Notary Archive of Naples, and bank payment records of Archives of Bank of Naples, the theatrical practice in this period and role of impresario had been revealed.

研究分野：音楽学

キーワード：ナポリ 劇場 オペラ 音楽史 民間劇場 公証人 興行 演劇

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、18世紀のヨーロッパの音楽シーンを主導した「ナポリ楽派」と呼ばれるナポリで学んだ作曲家群とその影響の広がりについて興味を持ち、とりわけ、現地でも現在なお研究が十分ではないナポリの諸劇場の実態の再構築について、楽譜、台本、そしてナポリ銀行歴史文書館史料等に基づき断片的に現地調査を行ってきた。

2. 研究の目的

本研究は、18世紀、19世紀のナポリの民間劇場の担い手（興行師、観客、出資者）が誰であったのか、そして、どのような政治や新思想との関係においてオペラや演劇作品が上演されていたのか、諸史料より多角的に調査しようとするものであった。

3. 研究の方法

ウィーン・ハプスブルク家出身のナポリ王妃マリア・カロリーナは、第一王子カルロ・テイトを出産後（1775）、ナポリ王フェルディナンドIV世に代わって宮廷の実権を握り、旧来のスペインとの関係を断ち切り、イギリス海軍の導入を図ろうとした。1780年代、ナポリの王立喜劇劇場で上演された「英国の勝利」を表象するオペラ群（チマローザ作曲《常に悪い道を選ぶ女》1784、《クック船長、或いはタヒチのイギリス人》1785 など）は、おそらく王妃派の関係者によってイギリスとの講和を準備するために企画、上演実施させられたオペラ作品と考えられるが、その関連性を実証するため、王妃と共に劇場に赴いたと考えられる芸術愛好家の駐ナポリ王国英国大使ウィリアム・ハミルトン（1730-1803; 駐ナポリ王国大使 1764-1800）が、それらオペラに込められたメッセージをどのように受け取ったのか、大英博物館に残る本国向けの報告書（Egerton MS 2634-2641: 1764-1800）を調査しようとするものであった。

またナポリにおいては、これまで代表研究者が進めてきたナポリ公証人文書館、およびナポリ銀行歴史文書館での史料調査を継続し、特に種々の興行師、そしてパトロンとなる貴族たちの換金記録、契約文書類の史料発掘を試みるものであった。

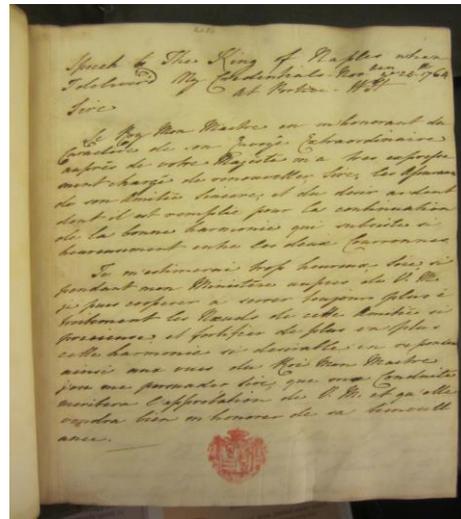
4. 研究成果

本研究での第一の目的とした大英博物館に残るハミルトン大使の本国への報告書群（Egerton MS 2634-2641: 1764-1800）について、全点調査を行ったが、ナポリの劇場活動、音

楽活動、そしてオペラ作品に関する具体的な記述は、残念ながら見出すことはできなかった。

史料例 1: ハミルトン文書

UK-Lbl,Egerton,MS2634 (1764),fog.1



一方、ナポリ銀行歴史文書館での換金記録史料の調査を展開させるものとして、とりわけナポリ公証人文書館における公証人文書の調査を行った。これにより劇場興行の実態にかかわる多数の未発見一次史料を発見することができた。劇場関係の契約を多く引き受けていた幾人かの公証人記録に収められる、劇場関連契約文書がいかなるものか、その内容の一部を以下に示してみたい。

史料例 2: 公証人マンドゥーカ史料

ANN, Gaetano Manduca, 1770, f.269v-270f



●1767年 公証人 Gaetano Manduca 文書
 ・f.238v-254v: ノオーヴォ劇場主 Michelangelo Freda, 同 Francesco Antonio de Laurentiis 間の

賃貸取り決め文書。

・f.467v-472v: フィオレンティーニ劇場演劇シーズン興行師 Giuseppe Ferrari の結んだ、喜劇俳優団との契約文書。

・f.499v-509v: フィオレンティーニ劇場主 Saverio de Neila と同劇場の賃貸契約文書。

・f.595-610v: ヌオーヴォ劇場興行師 **Blanchi** による、同劇場所属のすべての関係者の契約詳細。

・f.630f-635f: ヌオーヴォ劇場興行師 **Blanchi** と同劇場出資者の **Roccella** 公爵夫人間の取り決め。

・f.639v-648v: カストラート歌手 Gaetano Majorano の教会への寄進。

・f.937-949f: フィオレンティーニ劇場主 Saverio de Neila による同劇場賃貸契約。

●1768年、Gaetano Manduca 史料

・f.39f-43v: ヌオーヴォ劇場興行師 **Blanchi** と台本作家 **Mililotti** との契約。特に演劇シーズンについての詳細。

・f.73v-74v: 劇場主 **Laurentiis** と舞台制作家 **Smeraglia** との取り決め。

・f.91v-93v: ヌオーヴォ劇場興行師 **Blanchi** と劇場主 **Michelangelo Freda** 間の取り決め。

・f.210f-231v: 劇場主 **Laurentiis** と興行師 **Blanchi** 間の劇場の賃貸契約文書。

・f.378v-386v: 興行師 **Blanchi** とその妻 **Giuseppa Ferrari** との間の財産分与取り決め。

●1775年、公証人 Gaetano Manduca 史料

・f.222f-224v: ポルティチ離宮でのクッカーニャ祭りのための、大工仕事についての契約

・f.359f-367v: 宮廷劇場委員会 **Ripa** 公爵と、フィオレンティーニ劇場オペラ興業師 **Dolzitelli**、およびヌオーヴォ劇場演劇シーズン興業師 **Sartiani** 間の、1776年謝肉祭、王室ポルティチ離宮への喜劇役者、オペラの引越し公演についての契約。

●1786年、公証人 Nunziante Abbate 史料

・f.1f-9f: フィオレンティーニ劇場主 **Maddalena** 侯爵夫人の家族の話。

・f.16f-28v: 劇場主 **Maddalena** 侯爵夫人の家族の遺産の内容。および、10000 ドゥカーティを費やして、フィオレンティーニ劇場を改装する内容について。

・f.66f-83v: フィオレンティーニ劇場主 **Saverio Neila** と **Ristori** 公爵夫人の間に交わされた劇場賃貸契約文書。

・f.192v-196v: フィオレンティーニ劇場興行師 **Coletta** から出資者 **Laro** への借金について。

・f.554f-559f: ヌオーヴォ劇場オペラシーズン興行師と、演劇シーズン間の劇場使用条件の取り決め。

・f.567v-569f: フィオレンティーニ劇場興行師 **Coletta** の借金について

・f.645v-651v: 楽長 **Pietro Guglielmi** の労働契約。

・f.672f-676f: 興行師 **Coletta** による **Giovanni Palladino** への出資記録。

・f.735v-746v: ルビーノ公爵から借りたフィオレンティーニ劇場興行師 **Coletta** の借金について、金利、返済計画等。

・f.746v-748v: フィオレンティーニ劇場興行師 **Coletta** と出資者 **Laro** 間の借金について。

など

本公証人文書館での調査で明らかにした史料は膨大であり、順次発表を行う予定であるが、いくつかのテーマについては、本期間中に全文転写、翻訳を行い、論文3、論文4へとまとめることができた。

またこの成果を基に、公証人史料に関して更なる調査を展開することへつながり(2018年よりすべての公証人史料が、ナポリ公証人文書館からナポリ国立文書館へと移管となり、史料へのアクセスが容易となったため)、当初おおよそ期待されていた成果は十分に達成したものと言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

1) 朝山奈津子、森田学、山田高誌 「イタリア近代歌曲の興隆、その知られざる諸相から: 詩、ワグネルズモ、ピアニスト(前篇)」、うち「イタリアにおけるワーグナー: 研究とニッセンへの影響を中心に」、『弘前大学教育学部紀要』vol.114, (2015年10月), pp.59-73 (うち担当分は pp.66-73)

2) 山田高誌 「《オリンピーアデ》～規範、伝播とその変容」、紀尾井ホール開館 20周年記念公演ペルゴレージ歌劇《オリンピーアデ》公演プログラム、2015年10月6, 8日、pp.74-81.

3) 山田高誌 「公証人史料にみる、18世紀ナポリの民間劇場の利用条件; オペラ興行師と演劇興行師の劇場共同利用」熊本大学教育学部紀要、65 (2016)、171-193

http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp/bitstream/2298/35886/1/KKK0065_171-193.pdf

4) 山田高誌 「『パルナッソス山への階梯』
18世紀後半のナポリにおける、音楽家のキャ
リア構築の実態 —ナポリ銀行歴史文書館史
料に基づく、作曲家、台本作家、器楽奏者の労
働条件と、その経年的変化の解明」九州地区
国立大学教育系文系研究論文集,5-2 (2018),
No.5, 88p.
https://nuk.repo.nii.ac.jp/index.php?action=repository_action_common_download&item_id=359&item_no=1&attribute_id=22&file_no=1&page_id=13&block_id=17...

[学会発表] (計 3 件)

山田高誌 「古典オペラの復活蘇演～さまざま
なアプローチ、現状と展望～」、日本演劇
学会秋の研究集会—法政大学能楽研究所「能
楽の国際・学際的研究拠点」共催シンポジウ
ム「古典演劇・伝統演劇の復元的上演はどこ
まで可能か」、法政大学、2015年10月23日

Takashi Yamada “Giuseppe Benevento: un
maestro affidato a Cimarosa”, Convegno
Internazionale di Studi “Commedia e musica al
tramonto dell’Ancien Regime: Cimarosa,
Paisiello, e i maestri europei” (24-26 Novembre,
2016), “A”Conservatorio di Musica di Avellino
“Domenico Cimarosa”, 2016/11/26

山田高誌 「イタリア“地方”劇場の役割：“革
命期”ヴェネツィア、ナポリの劇場事例から」、
シンポジウム「“地方”における国民形成と芸
能～劇場、学校、地域共同体」、熊本大学、
2017/3/5

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 ()

研究者番号 :

(2)研究分担者 ()

研究者番号 :

(3)連携研究者 ()

研究者番号 :

(4)研究協力者 ()